

第3回 学校運営協議会（定時制部会）議事録

校名	大阪府立西野田工科高等学校
准校長名	高橋 道生

開催日時	令和7年1月27日(月) 18:30～20:16
開催場所	大阪府立西野田工科高等学校 小会議室
出席者（委員） ※敬称略	【会長】丹羽 登（関西学院大学教授）、杉本 三六（後援会会長）、小山謙一（神戸大学キャリアカウンセラー）、本田 絵美（地域婦人会）、平井 佳子（本校前SSW）、水谷 麻由美（保護者）
出席者（学校）	高橋 道生（准校長）、朝川 裕之（教頭）、二子石 知恵（主査）、中路 裕介（首席・生徒部長）、川上 裕也（教務部長）、大川 喜明（記録担当）
傍聴者	0名
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 第3回学校運営協議会次第 ・令和6年度 第3回学校運営協議会 資料 ・令和6年度 学校経営計画及び学校評価（案） ・学校教育自己診断比較（R3-R6） ・大阪府立西野田工科高等学校（定時制の課程）グランドデザイン ・令和7年度 学校経営計画及び学校評価（案） ・学校教育自己診断結果【生徒】【保護者】【教員】 ・第2回 授業アンケート結果

議題等（次第順）
<ol style="list-style-type: none"> 1 会長あいさつ 2 准校長あいさつ <p>【協議】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年度学校経営計画及び学校評価（案）について 2 令和7年度学校経営計画及び学校評価（案）について 3 学校の取組み報告 4 第2回授業アンケート結果について 5 学校教育自己診断の結果について 6 まとめ
協議内容・承認事項等（意見の概要）
<ol style="list-style-type: none"> 1 令和6年度学校経営計画及び学校評価について【承認】 <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像（4つの柱）の充実に向け、令和6年度の重点項目として、①教職員の授業力を向上させること、②支援マインドを向上させ支援体制の強化をめざすことを挙げた。 ・学校教育自己診断結果および授業アンケートの肯定率をもとに、学校評価を行っている。今年度は、概ね昨年度の結果を上回り、目標を達成している項目が多かった。 <p>（委員の意見等）</p> <p>（1）学校教育自己診断の生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」の評価が令和4年度から下降傾向にあることについて</p> <p>【委員】学校が楽しいという質問自体が難しく、判断しにくいと思う。指導等については、生徒と教職員との関わり方もあるので、学校が楽しいという数値を上げるのは難しいように感じる。また、楽しいという内容は人によって感じ方は違うので、そこは</p>

生徒と話をしながら判断し、良くしていけば良いのではないか。

【委員】不登校を経験した保護者も多い学校なので、毎日学校に通っている姿に期待値も込めて楽しく学校に通っているという項目に○をしているように感じる。

(2) 令和6年度の学校評価について

【会長】今年度の達成状況について良く分かった。この形で進めていただきたい。

2 令和7年度学校経営計画(案)について【承認】

- ・基本的には今年度を継承しているが、文言等の修正と項目整理を行っている。
- ・本校のランドデザインを作成し、めざす学校像をより明確にした。
- ・閉校に向け、組織の改編をしながら、学校運営を進めていく。

(委員の意見)

【会長】令和7年度学校経営計画については令和6年度を踏襲しつつ、内容も分かりやすくなっている。閉校も控えており、生徒のために最後までよろしく願う。

3 学校の取組み報告

- ・教務部長・生徒部長より在籍状況や進路状況や生徒の様子について説明。

(進路に関する質疑)

【会長】今年度の企業の求人状況についてはどうか。

【教務部長】在校生でなくても、卒業生でも構わないから来てほしいという状況である。

【委員】卒業生の離職率はどうか。

【教務部長】1年以内でやめてしまう生徒は、毎年いる。

【会長】大学でも5年以内でやめていく学生は多い。

(特別活動についての質疑)

【会長】校外学習や修学旅行の行き先はどのように決めているか。

【生徒部長】金銭的に余裕のない家庭の生徒が多いため、自分からは行けないような場所を教員が提案している。例えば今年度の芸術鑑賞は、なんばランド花月に行った。生徒の参加率も高く、楽しんでいたと思う。

4 第2回授業アンケート結果について

(アンケート結果を受けての質疑)

【会長】例えば数学の学力等はどうか。分数・少数の計算はできるのか。

【教務部長】小学校3年生くらいからのつまずきがあり、少数や分数の計算ができない生徒もいる。数学の概念や考え方に重きを置いた授業を行い、計算自体は簡単に解けるように工夫することもある。

【会長】小3くらいでつまずく児童は、具体的と抽象的の違いが理解できず、算数を解くのが難しい。計算ができなくて自己肯定感を下げるくらいなら、電卓の使い方を学び、概念や考え方を学ぶ方が効果的である。最近、スマートフォンの電卓機能も性能が上がっているので、ICTツールを活用しながら、生徒の特性や実情に合わせた授業形態にし、うまく進めていってほしい。

5 学校教育自己診断結果について

- ・学校教育自己診断【生徒】【保護者】【教員】の結果について詳細説明

6 まとめ

次回会議日程

日時	令和7年6月6日(金) 18:30～
場所	大阪府立西野田工科高等学校 小会議室